

小学校 編

1 年

「くじらぐも」

くじらぐもからチックタックまで

石川文子/著 フロネーシス桜蔭社 908.3/ク

最初から最後まで心温まるお話です。

みんなで体操をして、かけっこをして、空を泳いで、歌って。

なんて楽しそうなんだろう。歌もあるのでぜひ調べてみてほしいです。

1 年

「ずーっとずっとだいすきだよ」

ずーっとずっとだいすきだよ

ハンス・ウィルヘルム/著 久山太市/訳 評論社 E/ウ

とある犬と男の子のお話です。

絵を見ていると犬の手触りや体温が伝わってきそう。

相手にきちんと伝えることはとても大切だと教えてくれる絵本です。

2 年

「ふきのとう」

ふきのとう

甲斐信枝/著 福音館書店 47/カ

竹やぶの中で、外を見るために懸命に頑張るふきのとうと、

春風をまつなかたちの物語です。冬から春になる瞬間の描写は

思わずため息が出るほどの美しさです。



2 年

「はながさいた」

まど・みちお全詩集

まど・みちお/著 理論社 J911.56/マ

春が来て、花がひらく喜びをやさしい言葉で歌った詩です。
自然の美しさやたくましさに、あらためて気づかせてくれる言葉の数々。
詩のあたたかさをぜひ味わってみてください。

2 年

「お手紙」

ふたりはともだち

アーノルド・ローベル/著 三木卓/訳 文化出版局 E/口

私たちとちょっと違う、カエルたちの友情のお話です。
お互いを思う様子が見ていてとてもほほえましい！
セピア調の色合いも見ていて落ち着きます。



2 年

「スーホの白い馬」

スーホの白い馬

大塚勇三/著 赤羽末吉/絵 福音館書店 OE/才

モンゴルの大草原で暮らす羊飼いの少年スーホと、
愛する白い馬との絆を描いた感動的な物語。理不尽な権力によって彼らは悲しい別れを
迎えますが、馬は自分の体から「馬頭琴」という楽器を生み出します。
楽器の音色に込められた友情と愛を感じてみてください。

2年

「スイミー」

スイミー ちいさな かしこい さかなの はなし

レオ=レオニ/著 谷川俊太郎/訳 好学社 E/レ

人と違うことに胸を張ることの大切さについてのお話です。

ずっと一緒にいた仲間たちと離れたスイミーが、冒険を通して強くなる姿には元気がもらえます。

3年

「モチモチの木」

モチモチの木

斎藤隆介/著 滝平二郎/絵 岩崎書店 E/サ

主人公の小さな成長が描かれる物語以外にも、特徴的な切り絵が印象ぶかいです。特にモチモチの木の見開きは圧巻です。

木の実から作ったお餅はどんな味なんでしょうか？

3年

「ちいちゃんのかげおくり」

ちいちゃんのかげおくり

あまんきみこ/著 上野紀子/絵 あかね書房 E/ア

ただ、家族みんなで影送りをしたかったちいちゃん。

そのささやかでかけがいのない願いを奪っていった戦争の恐ろしさが描かれていて、読んだ後考えさせられます。

3 年

「わたしと小鳥とすずと」

金子みすゞ童謡集 **わたしと小鳥とすずと**

金子みすゞ/著 JULA 出版局 911.58/カ

空を飛べる小鳥、きれいな音が出せる鈴、そして人間である「わたし」のそれぞれが持つ魅力を愛らしく描いた詩です。「みんなちがって、みんないい」という有名な一節は、周囲との違いに悩みがちな中学生の心に優しく寄り添ってくれます。自分も他人も、それぞれがかけがえのない存在なのだと教えてくれる名作です。

3 年

「三年とうげ」

さんねん峠 朝鮮のむかしばなし

李錦玉/著 朴民宜/絵 岩崎書店 OE/リ

「ここで転ぶと三年しか生きられない」という言い伝えがある峠で、うっかり転んでしまったおじいさんのお話です。落ち込むおじいさんに対し、「何度も転べばその分長生きできる」という逆転の発想で救う展開がとても痛快です。ピンチをチャンスに変える知恵とユーモアの大切さを、テンポよく教えてくれます。

4 年

「ごんぎつね」

ごんぎつね

新美南吉/著 黒井健/絵 偕成社 E/二

多くが覚えているであろう作品の一つ。
すれ違ってしまった展開と淡い絵が印象に残っています。
最後の煙の描写が忘れられません。



4 年

「手ぶくろを買いに」
手ぶくろを買いに

新美南吉/著 黒井健/絵 偕成社 E/三



冷たい雪の日に、子狐がお母さん狐のために初めて街へ手袋を買いに行き、心温まるストーリーです。未知の世界へ踏み出すときどきと、人々の温かい心を感じられる美しい童話。ぜひ親子で読んでみてください。

5 年

「大造じいさんとガン」
大造じいさんとガン

椋鳩十/著 偕成社 93/ム

賢い鳥である「残雪」と猟師である大造じいさんの静かな戦いのお話です。知恵比べが描かれます。両者の誇り高さと結末はすっきりするものがあります。

5 年

「うぐいす」
雲の窓[小さい詩集]

武鹿悦子/著 牧野鈴子/絵 大日本図書 91

春の訪れを知らせるうぐいすの鳴き声や、季節が移り変わる瞬間の空気を切り取った詩です。思わず声に出したくなる心地の良いリズムの詩。ぜひ味わってみてください。

6 年

「やまなし」

宮沢賢治童話集

宮沢賢治/著 世界文化社 Y913/ミ

小さな谷川の底にある水の世界で暮らすカニの兄弟たち。
厳しい自然の中で生命の美しさや自然の姿を描いた儚く美しい童話です。

コラム

草原のチェロ・馬頭琴

「スーホの白い馬」で登場する馬頭琴は、今でもモンゴルではなじみ深い楽器です。馬頭琴はモンゴル語で「モリンホール(馬の楽器)」と呼ばれ、ユネスコ世界無形遺産に登録されています。また、モンゴルでは乗馬と併せて馬頭琴が上達して、はじめて一人前とみなされます。馬頭琴は、弦が二本張られている擦弦楽器で、ネックの一番上に必ずある馬の頭の彫刻が特徴です。実際に使われる素材は、物語のように馬の体ではなく、木製のモノが多いです。やわらかくあたたかい、深みのある馬頭琴の音色を聴いた人には幸運が訪れるといわれ、舞台音楽だけでなく、結婚式などのお祝いの席にも欠かせない楽器です。

参考文献

<https://kisakata-baigal.com/news/404/>

